



## 第70回塩竈みなと祭開催!

### 地域に根付くお祭りに

戦後直後の昭和23年、港町塩竈の産業復興と、疲弊した市民の元気・活力の回復を願って始められた『塩竈みなと祭』。今年で70回目を迎え、7月16、17日に開催されます。

子どもから大人まで約3,000人の市民が参加する陸上パレードの『よしこの塩竈コンテスト』を盛り上げているのが『よしこの塩竈』という踊りです。平成元年に、「港町塩竈に活気を」と市民有志の活動のもと、塩竈の伝統民謡『塩竈甚句』をモチーフに、歌って踊れるリズムカルな楽曲(民謡)として音楽家・寺内タケシさんなどにより作曲されました。

その『よしこの塩竈』を地域に浸透させるために活動しているのが、来年で結成30周年を迎える『塩竈よしこの連』です。

塩竈よしこの連では毎年、塩竈みなと祭の時期が近づくと、市内の小学校や中学校、町内会や企業などからの依頼で、踊りや振り付けの指導を行っています。代表の丹野尚子さんは、「最近では参加者の多くがオリジナルの振り付けをするなど積極的に取り組んでいます。特に小中学生には“地域のために”を意識できるような、また、地域ぐるみで楽しめるお祭りをしていきたい。」と期待を膨らませていました。

第70回塩竈みなと祭のイベント概要は、広報しおがま7月号でお知らせします。



▲「よしこの塩竈」の振り付けを教える丹野尚子さん(杉小)

問 塩竈みなと祭協賛会 ☎361-3240

## シリーズ 日本遺産 「政宗が育んだ“伊達”な文化」と塩竈



JAPAN HERITAGE  
日本遺産

### 塩竈の恩人 肯山公『四代藩主綱村』

鹽竈神社の表坂202段を見上げると、緑に包まれた朱漆塗りの楼門が輝いて見え、伊達政宗が復興した“しおがまさま”にいつも見守られているようです。

政宗のひ孫である四代藩主綱村は、幼いころ寛文事件(※)に巻き込まれた影響からか、神仏をあつく信仰していました。藩主として初めて17歳で江戸から仙台城に入り、鹽竈神社を参拝しました。鹽竈神社へは日本刀を奉納したり、7月10日の例祭に参拝したりしました。また、鹽竈神社縁起を作成し、現在へと続く社殿の造り替えも行いました。

(※) 寛文事件…江戸時代前期に伊達家で起こった御家騒動



東園寺住職 千坂成也さん

「文化の港シオーム」ホームページ  
<http://shioimo.jp/kodomo/edo-episode03>

城 下町仙台的港町であり鹽竈神社の門前町である塩竈が、流通経路の変化などで廃れていくことを憂いた綱村は、港を整備し新鮮な魚や材木の水揚げを塩竈に限るなど手厚く保護し、鹽竈神社と塩竈の町を発展させました。当時の人々はこの恩を後世に伝えるため石碑に刻み、その一部が現在でも東園寺(旭町)に残っています。

東園寺住職千坂成也さんは、「肯山公は疲弊した時代でもまちを復興させようと尽力されました。子どもたちには、周りの人に守られているのだと自覚しながら、見聞を広め、自分の力で何事にも取り組んでほしい。」と語っています。

東園寺では毎年6月19日に肯山公の速夜法要が営まれ、来年は遠忌300年になります。

【参考文献:「鹽竈神社」、「鹽竈神社と港町塩竈の歴史」】

問 生涯学習課学習支援係 ☎362-2556

防災行政無線で放送された内容を再確認したいときは、自動音声で放送内容を聞くことができます。 防災行政無線確認電話 ☎364-1260



エフエムベイエリア (FM78.1MHz) でも防災行政無線の内容や防災情報を放送していますので、災害時にはラジオを活用ください。

【塩竈市の人口】 H29.4.30現在

住民基本台帳調べ (前月比)
人口 54,949人 (-10人)
男 26,245人 (-19人)
女 28,704人 (+9人)
世帯数 23,241戸 (+45戸)